

# 「バルセロナ Smile プロジェクト 2012」

## 活動報告書

2012年8月16日～2012年8月24日

作成：一般社団法人プロジェクト結コンソーシアム

震災復興チャリティ

「バルセロナ Smile プロジェクト」



## イベントの概要・目的

子どもたちが夢見るスポーツの世界と協力し、被災した子どもの心の成長を支援することを目的としています。イベントを通じて、子どもたちが、強く逞しく生きるための一生の活力となる経験を得ていただきたい、また、スペインの人々の温かい支援に触れて日本と海外の繋がりを理解し、国際感覚を持った世界で活躍する人材に育てていただきたいと願っています。

子どもたちが厳しい環境の中で夢を目指して懸命に努力する姿は、周りの仲間や大人たちを勇気づけ、被災地の日でも早い復興に繋がると信じています。

東日本大震災にて被災した児童 18 名〈宮城県石巻市渡波（わたのは）サッカースポーツ少年団所属〉を 8 月に無償でバルセロナに招待し、FC バルセロナの試合観戦や、現地サッカーチームとのサッカー交流などを実施しました。

## 主催

### バルセロナ Smile プロジェクト実行委員会

#### 参加メンバー

- ◆IESE Business School 有志（奥谷直樹、伊地知亮太、関藤聡一郎、眞鍋将之 他）  
IESE は 1958 年に設立され、1964 年に米ハーバードビジネススクールとの提携によって欧州初の 2 年制 MBA プログラムを開始したビジネススクールです。  
IESE Business School: <http://www.iese.edu/>
- ◆一般社団法人プロジェクト結コンソーシアム  
東日本大震災で被災した子どもたちの学びと遊びを、中・長期にわたり官民連携で支援するコンソーシアム。個人・NPO・企業・行政などが一つのチームとなり、創造的復興に向けて、支援活動を行っています。  
プロジェクト結 : <http://project-yui.org/>

## スケジュール

2012/8/16	
AM	石巻より成田空港へ向け出発
夜	成田空港よりドバイへ向け出発
2012/8/17	
AM	ドバイ空港よりバルセロナへ出発
PM	エルプラット空港よりヘガス宿舍へ向け出発
夜①	勉強会①『もっとバルサを知る』
夜②	終わりの会&日記
2012/8/18	
AM①	起床、朝の体操、朝食、健康チェック
AM②	カンブノウFCバルセロナミュージアム訪問・見学
PM	グエル公園観光
夜①	勉強会②「天才建築家がウディ」
夜②	終わりの会&日記
2012/8/19	
AM	起床、朝の体操、朝食、健康チェック
PM	市内観光 カサミラ、カサパトリヨ 等
夜①	ソシエダ戦 試合観戦 ◎カンブノウスタジアム
夜②	終わりの会&日記
2012/8/20	
AM	起床、朝の体操、朝食、健康チェック
PM	フチサッカー大会
夜①	サンブドリア戦 フラッグボーイ&試合観戦
夜②	終わりの会&日記
2012/8/21	
AM	起床、朝の体操、朝食、健康チェック
PM①	サッカースペイン語講座・自己紹介・歌練習
PM②	現地少年チームとの交流試合
夜①	現地少年チームとの交流会(軽食有り)
夜②	終わりの会&日記
2012/8/22	
AM①	起床、朝の体操、朝食、健康チェック
AM②	サグラダファミリア観光by外尾氏
PM	FCバルセロナ式トレーニング体験(講義&練習・ミニゲーム)
夜②	終わりの会&日記
2012/8/23	
AM	まとめの会 & 帰国準備
PM	バルセロナよりドバイへ出発
2012/8/24	
	ドバイより成田、石巻へ

## 2012/8/16～8/17 石巻よりバルセロナへ

### ◆いざ、バルセロナへ

初の海外旅行経験がほとんどの子どもたち。緊張感と高まる期待から興奮が冷めやらない。飛行機酔いや、ほぼ 24 時間を越える長時間の移動にも子どもたちの屈強な精神力は負けることはなかった。不安と希望が入り混じりながら、一路バルセロナへ。



成田空港。初めての飛行機に心躍る。ブラジル人のサッカー選手に会うなど、初めから異文化交流を体験。期待に胸ふくらませて、いよいよ機内へ。「怖い？」という質問に、「早く飛行機の中でテレビゲームがしたいっ！」という心強いコメントも。



トランジットのドバイ。この旅初めての外国風な感じ。匂いが違う。いる人が全然違う。そうした中でも、10 時間のフライトにも負けず、走る、飛び回る、カードゲームする。4 時間の長い小休止。「次の飛行機はまだ？もう行こうよ」。よく頑張りました。



ようやくバルセロナ、エルプラット空港に到着。長かった。いよいよバルセロナ・スマイル・プロジェクトの開始です。楽しむぞ。

タクシーで 6 泊を過ごすこととなるベガス宿舎に向かいましょう。

### ◆宿舎ベガスに到着

敷地や建物を管理人のホセ・アントニオ氏に案内してもらう。ベガスはバルセロナ市内より車で 30 分程度の閑静な地域にあるキリスト教の宿泊施設。小学校が隣接する、安心できる場所。そして、日本とは異なる時間が流れる空間。



宿舎にはグラウンドが隣接している。  
声を上げ、「いつサッカーしていいの？」と  
長旅の疲れも見せず、おれ、運動したい。  
スペインの日差しは熱い。痛い。  
もう少し日が落ちてから、体を動かしまし  
よう。



教会や学校、グラウンドなど敷地内を案内  
してもらい、施設の中での過ごし方など優  
しいアントニオ氏が分かりやすく指導して  
くださった。  
恰幅の良い、笑顔の素敵なやさしいおじさ  
ます。滞在の間、終始気にかけていただ  
きました。



教会でベガス宿舎の歴史やバルセロナにお  
ける位置づけなどについてお話を聞く。  
お祈りをする施設利用者のおばあさんとも  
「オラ！！」とちゃんとあいさつもできた。

#### ◆勉強会 「もっとバルサを知る」

夜の部です。FC バルセロナの試合を見に行く前に、ちゃんとバルセロナについて勉強し  
ましょう。ということで、FC バルセロナの歴史、そしてFC バルセロナの選手について  
学んでいます。



遠い旅の初日。身体は疲れているけれども、  
メッシのビデオが出てくれば、すごい集中  
力。なぜ、バルセロナのサッカーは強いん  
だろう？ なぜ、メッシはイッパイ点が取  
れるんだろう？  
そんなことを考える時間でした。

## 2012/8/18 FC バルセロナミュージアムとグエル公園観光

### ◆スペインの朝



スペインの朝は、「しんちゃん体操」で始まります。眠い目をこすり、連れ出されたバスケットコート。グループごとに分かれてみんなで体を動かします。体操をしたら、次はキックドッジボール？ ボールが当たったらアウト。いい汗をかきました。ご飯を食べて、体温を測って。いざ出発準備。今日も一日頑張ろう。

### ◆バルセロナミュージアム見学

いよいよ子どもたちがバルセロナ市内に繰り出す初日。バスで移動し向かうその先は、もちろん FC バルセロナ本拠地のキャンプノスタジアム。今日はスタジアムに隣接するミュージアムを見学。すごいトロフィーがいっぱい。「全部、ホンモノなの？」



スタジアムのその大きさに期待が広がる。スタジアム見学の後には、オフィシャルショップでお買い物。限られた時間だけど、自分のお土産、家族や友達へのお土産。一生懸命選びました。

### ◆市内観光 ～グエル公園

グエル公園に到着。ガウディが作ったおうちがいっぱい。「家賃はいくらですか？」と聞く君たち。将来借りられるといいね。ギリシャ広場からはバルセロナの街が一望です。ちょっと暑いですね。よくがんばりました。お水を一杯飲みましょう。



## 2012/8/19 市内観光とバルサ戦観戦

### ◆眠い朝はサッカー！



眠い。動かたくない。でも動きたい。

サッカーだけは違うようです。今日は盛りだくさん。「今日は試合見れるんでしょ？メッシ出るの？何時から見るの？」朝からすでに試合が気になる。運動して、ご飯食べて、今日も元気に過ごしましょう。やっぱり子どもたちはサッカーとなると顔色が変わる。コーチによるウォーミングアップと練習後、試合。おとなたちもチームを作って身体を動かして交流した。

※毎朝、子どもたちの検温の他、便の調子や腹痛・頭痛・発疹等の有無を、医師監修のもと確認。幸運にも体調不良者もけが人も出ることなく、無事に旅を過ごすことが出来た。



### ◆カサ・ミラ、カサ・バトリヨ。ガウディの作ったおうちを見学

ガウディが作ったおうち、カサ・ミラ、カサ・バトリヨを見る。すごいキレイ。でもまだ早いかな？記念撮影をして、おいしいパエリアを食べに行こう。



「僕の家と全然違う」それはそうだね。

こんな所に住みたい？

「子どもだからわからない」。

その言い訳が使えるのは、あと何年だろう？

ランチ。いよいよパエリア。

「パエリアってなに？ ん？ おいしい。」

「オレンジジュース飲みたい。これ、薄い。」

この子どもたちが、食を通じてスペインを感じてくれていることを願う。



### ◆いよいよバルサの試合観戦

子どもたち、興奮して何をしゃべっているかわからない。興奮してキョロキョロして、あまりにも大きいスタジアムに足を踏み入れる。このスタジアムは10万人もお客さんが入れるらしい。そして今日の試合はリーグ第一戦、つまり開幕戦。胸躍る。いよいよスタジアムに足を踏み入れることが出来るとなると、緊張する気持ちを抑えるために円陣を組んで、声を出して入ることになりました。さあ、楽しもう。



試合開始は夜の21時。キャプテンのプジョルのヘディングシュートを皮切りに、メッシは2得点をあげ、5-1でFCバルセロナの快勝。「かっこよかった」「楽しかった」。興奮しすぎて試合が終わったら、疲れ切って、眠ってしまう子も。すばらしい経験ができました。「僕たち、ラッキーだね」という言葉がうれしい。



## 2012/8/20 フラッグボーイとしてカンプノウの地に

### ◆選手たちと手をつないで憧れのピッチに降り立つ



連日の夢の体験。おそらく日本人初といわれる FC バルセロナのフラッグベアラーとしてキャンプノウの地に降り立つ。

緊張を前に、スタジアム前の芝生で腹ごなし。ボカディージョにはコーラが合う。バルセロナのチームにお礼の気持ちを込めて渡す国旗も作りました。渡せるチャンスがあるといいね。

コーチはVIP席で試合を観戦。こんな経験はお金を払ってできるものではない。一生の思い出になることでしょう。 そしていよいよピッチへ。



子どもたちは知らないかもしれないけれど、クーマンやストイチコフなど往年のバルセロナの有名選手が子どもたちの前を通り、スタジアムにて記念イベント。

今日の試合はジョアンガンペール杯というバルセロナの記念試合。イタリアの古豪 Sampdoria との 20 周年試合。楽しもう。



あの渡波の子どもたちが、バルサそして Sampdoria の 2 チームに分かれてキャンプノウの地に降り立った。

カッコいいぞ。大人たちは 1 階の観戦席そしてVIP席から大きな拍手を送る。

このような機会をいただいた FC バルセロナに感謝です。

「バルサッ、バルサッ、バルサッ！！！」



フラッグベアラーを無事終えた後は 1 階席でバルセロナ戦を観戦。

メッシは出ていなかったけれど、

0 対 1 で負けてしまったけれど、

かけがえのない経験ができました。

すごいぞ、君たち。大人たちは君たちを誇りに思う。

渡せなかった旗を渡す方法を考えよう。

## 2012/8/21 地元少年サッカーチームとの試合と交流

### ◆子どもたちのメインイベント ～交流試合～

いよいよスペインの子どもたちとのサッカー交流の日が来た。「スペインの子どもたちは強いのかな？」そんなことを言っている子どもたち。言葉も通じず、何か問題があったらどうしよう、喧嘩したらどうしよう、そんな不安をよそに子どもたちは素晴らしい経験をやる。



スペインで修業中の日本人コーチと陽気な現地のコーチ&保護者による合同プログラム。なんとなくまだギコちないところもあるけれど、ちょっとずつ馴染んでいく。事前に準備したスペイン語の勉強は活かされたのかな？

いざチームに分けて試合をする。  
日本 VS スペインではもちろんない。  
今回の目的は勝負ではなく交流。  
だから、混成チームでやるのです。  
点を決めたらハイタッチ！！  
世界共通だね。



一度一緒に試合をしたら、もうともだち。  
ことば？ そんなものいらない。  
なんとなくのボディランゲージ。  
でも、それで伝わるところがすごい。  
こんな経験、君たちにしかできないね。

試合終了。そして結果発表。  
勝ったチームには拍手。  
負けたチームにも拍手。  
それがサッカーなんだな。



◆こどもたちのメインイベント ～交流会～

サッカーを終えて、シャワーを浴びて、そこから近くのお店に行って、打ち上げならぬ交流会。お菓子にコーラにそしてポカディージョ。腕相撲をしたり、追いかっこをしたり。喧嘩になりそうに見えるところもありながらも、これが今回の旅の一番の目的だったのかもしれない。言葉なんて本当に要らないことを、子どもも大人も学びました。スペインの子どもたちが「君たちの夢はかならず叶うよ」とメッセージをくれた。そしてスペインの保護者たちからも「こんな素晴らしい機会をくれてありがとう。またいつでも遊びにおいで」という言葉をいただくことが出来ました。最後にはお礼の歌を歌います。気持ちが伝わってればいいね。また来たいね。

《腕相撲大会》



《渡波よりうたのプレゼント》



《最後の記念撮影》



スペインの子どもたちの笑顔は、  
明るくて、優しくて  
最後まで楽しい時間を過ごさせてくれた。  
いつかお礼に来たいね。

## 2012/8/22 サグラダファミリア観光とFCバルサ流トレーニング体験

### ◆サグラダファミリア観光



バルセロナといえば、サグラダファミリア。文化については、これまでそこまで強い関心を持っていなかった子どもたち。その子どもたちの目の色が変わったのが、サグラダファミリア。

見上げる子どもたちが一瞬だまりこむ。  
何を感じたのか。何を考えているのか。



受付で待っていただいていたのは外尾悦郎氏。サグラダファミリアの建造に関わる建築家。スペインの文化やサグラダファミリアの歴史についてわかりやすくお話しいただいた。政治の都合で作品を作ってはならない。大人の都合で動かされてはならない。われわれ一行は大きな学びと反省を得た。



#### ◆冒険を続ける日本人との出会い



もうひとつの大きな経験。  
サグラダファミリア周辺で、ヨーロッパを  
自転車で周遊する日本人自転車軍団に遭遇。  
タパスを食べながら、「お兄ちゃんたち、何し  
てんの？なんで自転車なんかでヨーロッパを  
走ってるの？」。どんな答えが出てきた？  
素朴な疑問が子どもたちから出てくる。

もうひとり、スペインのサッカーリーグに  
挑戦し続ける佐藤氏。脱サラ・プロサッカ  
ー選手との出会いも、子どもたちには大き  
な刺激になっているだろう。  
挑戦することが子どもたちに何らかの形  
で伝わっていきるとうれい。



## 2012/8/22 バルサ式トレーニング体験

FC バルセロナ式のトレーニングを修め、スペインのプロサッカー監督としてのキャリア  
をスタートさせている白石氏による講義&トレーニング。



連日の盛りだくさんのプログラムから  
さすがに少し疲れが見えている。  
でもね。バルサのコーチが教えてくれる。  
眠いなんて言っていられない。でも眠い。

最後まで集中力を切らさないでがんばった。

学ぶべきことは  
判断力。  
局面における意思決定力。  
進むべきか、広げるべきか、下がるべき  
か。その判断力を学ぶのがバルサ流。  
これはサッカーだけの話ではなく、  
いろんな意味で勉強になったかな。勉強になると思うよ。





講義の後は、学んだことを実践。  
頭を使いながらサッカーをする。  
難しいね。でも楽しいね。

体を動かしながら、  
「ぼくは、バルセロナに戻ってくるの！！」  
戻っておいで。

教えてもらったお礼に添えて  
メッシに、バルセロナに渡せなかった  
メッセージ入りの国旗を  
白石さんに託す。



とても刺激的な経験ができました。いつか  
プロになってバルセロナに戻ってくる。

#### ◆最後の夜

いよいよ最後の夜。「おとなはビールを飲んで寝るんでしょ？」「お疲れ様会って言うんでしょ？」「こどもにはコーラはないの？」そんな話をしていると、もう遅い時間に。疲れたね。でも、日記を書かないとだめだ。明日は、最後にまとめをしよう。毎日毎日、就寝前に日記を書いてきた。最後の夜と言われた時、「もう帰るの？でもそろそろ石巻に帰りたいかも」と。すごく正直な思いなのかもしれない。疲れましたね。早く寝よう。



## 2012/8/23 最終日

### ◆振り返りの会

いよいよ帰国の日。最後にはまとめをしよう。毎日毎日、就寝前に日記を書いてきた。一週間何を感じたのかを振り返る。



いままで行った場所、  
やったことの写真を見ながら。  
じぶんが何をしてきたのかを振り返る。  
強く心に思ったこと、ふと思ったこと、  
何でもいいから日記にもう一度書く。

何かを学んでほしいなんて、おとなのエゴかもしれない。でも何かを感じてほしいと思ってしまう大人を許してほしい。だから、いま感じたことを形に残る文字として残してほしい。

そしてひとりひとり話をしてほしい。



でも、その時間が確保できなかったのも、みんなの話を聞くのは、帰国後の石巻までおあずけ。

ここではおとながお話をさせてもらいました。この時間にまじめに取り組んでくれたこと、とてもうれしかった。

### ◆挨拶と帰国

メッシがサインをくれました。そしてこれから日本に帰ります。子どもたちは何を学んだのか。大人は何を学んだのか。それをこれから考えていくことが、このプロジェクトの意味だと思います。



## 編集後記：

この報告書はまだ終了ではありません。

帰国から1か月たった今、これまで感じてきたことを文章として落としました。

日程は未定ですが、近日中に、石巻で「振り返りの会」を実施します。

その時に子どもたちが何を感じているか、そしてこれから5年後、10年後、あるいはそれ以上時間がたった後に、何かを感じているのか。

結果は、わかりません。

別の視点では、

今回のプロジェクトは、大人も多くの勉強をさせていただくことが出来ました。

非被災者として、被災者と向き合うとはどういうことなのか。

被災者かどうかとは関わりなく、子どもたちの将来を考えるとどうということなのか。

何かを実現しようとするときに、人を巻き込むことの責任と義務とその価値とは何か。

子どもたちは成長出来たのか、有意義な学びができたのか

参加してくれた子どもたちも、それ以外の大人たちも、まだまだ成長の可能性は未知数。

でも、こうした経験をさせてくれたプロジェクトにはすごく大きな感謝。

ちょっとした感謝の気持ちが、これから先の「何か」を変えたいと思います。

これからがスタートだと、なんとなく思っています。

現地の子どもたちと、非被災者の大人たちと、スペインのみんなの交流が、これからも続きますように。

そして、おなじような企画がこれからもできますように。

2012年9月

報告者： 戒田信賢

(プロジェクト結メンバー)

### 右 しんちゃん

しんちゃん体操、しんちゃんシール、梅干しで子どもたちの心を掴む担当。子どもたちのヒーローであり、永遠の12歳児。

### 中 モテちゃん

子どもたちを優しく包み込む担当。グズる子どももモテちゃんの手にかかればすぐに起きるのです。

### 左 かいかい

子どもを真顔で叱りつける担当。寝ない子どもは、じっと布団に入るまで睨みつけることが専門なのです。

